

2014年9月7日

ブライアン・ブルエット牧師

ピリピ人への手紙：喜びの青写真 #11

OICへようこそ。お越しいただきありがとうございます。今週も続けてパウロがピリピの教会に書き送った手紙を学んでいきます。皆さんは、自分宛でない郵便を開けたことがありますか。神は、私たちにそのような特権を与えてくださいました。というのも、この手紙はピリピの教会の信徒に宛てて書かれたものですが、私たちも読むことを視野に入れたものだからです。パウロはこの教会を開拓しました。投獄中で離れていても、牧師としてこの教会を気にかけていることがわかります。皆さん、4節から11節のメッセージがなかったことにお気づきでしょうか。ここで、少しその部分を要約してお話しましょう。パウロの語る内容はおおまかにこうです。パウロは、キリストがどれほど尊いお方であるかを知り、救いはキリストにおいてのみあると知ったときから、以前は大切だと思っていたすべてのものが無益に思え、キリストのためにすべてを捨てました。

今日は、ピリピ 3:12-16 を学びます。この箇所もすばらしいみことばが詰まっています。

ピリピ 3:12-16

3:12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。 3:13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えるはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、 3:14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。 3:15 ですから、成人である者はみな、このような考え方をしましょう。もし、あなたがたがどこかでこれと違った考え方をしているなら、神はそのこともあなたがたに明らかにしてください。 3:16 それはそれとして、私たちはすでに達しているところを基準として、進むべきです。

この箇所のテーマは、賞を目指して進もうという奨励です。今日は、完成されるという賞を追い求める際に必要となる3つの要素についてお話します。

要素 #1 自分は完成されたと思うのはまだ早い。

12節から、このような考えが示されています。

ピリピ 3:12

3:12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。

自己吟味すれば、自分があるべき姿ではないことに気づくはずだとパウロは言います。私たちは、与えられた可能性を100%出し切ってはいません。また、いつの日かイエスとお会いする日にあるべき状態にはなっていません。信仰の成長は、霊的にあるべき姿に到達している人は誰もいないと気づくことから始まります。「まだ完成形ではないけれど、それにむけて日々努めています」というのが望ましい姿勢でしょう。コリント第一に、これと同様のことが記されています。

コリント第一 13: 12

今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔とを合わせて見ることになります。今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知るようになります。

これもまた、私たちがまだ完成されていないことを思い出させてくれるみことばです。12 節を引き続き見ていきます。

ピリピ 3:12

3:12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。

追求すると訳されたギリシャ語の「ディオコー」という単語は、意欲的で活発な努力を意味します。つまり、賞を目指して全力を尽くして走っている、とパウロは言っているのです。パウロがこの言葉を書き記したのは、救われてから約 30 年も後のことです。ヘブル 12:1 にも同じ考えが表されています。

ヘブル 12:1,2

12:1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。12:2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせずに十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。

私たちの前進を邪魔するものはすべて取り除かなければなりません。賞を追い求める上で何が必要なのでしょう。ひとつめは、自分はまだ完成されていないと気づき、霊性が引き上げられる必要性を認めることです。そして、賞を得るために最大限の努力が必要です。

要素 #2 過去を振り返らない。

ピリピ 3:13

3:13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えるはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、

ピリピの信徒たちへのパウロの愛情が、「兄弟たち」という言葉に表れています。この手紙を読む人たちの心に届くことを、パウロは望んでいます。パウロはここで一言、「自分はすでに捕らえたなどとは考えるはいません」とことわります。パウロの焦点がぶれないのは、取捨両方の結果です。「捨」の部分は、「うしろのものを忘れる」ことであり、「取」の部分は、「ひたむきに前のものに向かって進」むことです。過去の罪に思い悩まないでください。残念ながら、昔の罪に対する罪悪感を引きずったままの人がたくさんいます。イエスはあなたの罪も不面目も背負って十字架にかかってくくださったのです。賞を目指して走るこの競争では、私たちクリスチャンが失格になることは決してありません。そのことをみことばが証明してくれます。

イザヤ書 1:18

「さあ、来たれ。論じ合おう」と【主】は仰せられる。「たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとい、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。

過去を忘れると、賞を追い求める動機が新たに見つかります。神が私の罪を赦してくださり、その罪を覚えておられないのです。それなのに、自分で自分をおとしめたり、縛ったりする必要が あるでしょうか。もうひとつ、助けとなるみことばをご紹介します。

詩篇 17:15

しかし、私は、正しい訴えで、御顔を仰ぎ見、目ざめるとき、あなたの御姿に満ち足りるでしょう。

私たちは、この世から召し出されたことをいつも覚えて生きる必要があります。私はいつかイエスに似た者となれる日が来ると知れば、やる気がわきます。天国に着く日に神が与えてくださる完成を私は待ち望みます。では、ここまです見た要素を振り返ってみましょう。ひとつめは、完成されていないことに気づく、でした。ふたつめは、過去を振り返らないことでした。

要素 #3 ゴールを目指して一直線。

ピリピ 3:14-16

3:14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。**3:15** ですから、成人である者はみな、このような考え方をしましょう。もし、あなたがたがどこかでこれと違った考え方をしているなら、神はそのこともあなたがたに明らかにしてください。**3:16** それはそれとして、私たちはすでに達しているところを基準として、進むべきです。

先ほども言ったように、この個所のテーマ、または核心部分は、賞を追い求めることです。14節でパウロは、目標を目指して一心に走っていると語ります。私たちもそうするべきです。

私がまだ若い副牧師だったころ、私を指導してくださった主任牧師と一緒に信徒の方々の家庭を訪ねました。ある信徒のお宅へ車で行き、駐車場に車を止めると、牧師は私にこう言いました。「ブライアン、車のドアを開けて、まだ外には出ないで、そのままドアをボタンと閉めてください。」私が見ていると、牧師は言ったとおりのことを自分もしました。なぜそんなことをするのかと私が尋ねると、このような答えが返ってきました。そのご家族はそのとき賞を追い求めているだろうから、誰かがカーテン越しに私たちが来たのを見つけるまで待ちます。5分ほどしてから家に入れてもらうのです。こうすることで、たばこの煙を窓から出したり、ビール瓶をソファの下に隠したりする時間をあげるわけです。これが効果的だったかどうかわかりませんが、興味深い経験をしたことは確かです。私はこのような家庭訪問はしません。皆さんのお宅に行くときは前もってお知らせします。

私たちはどんなことでやる気になるべきでしょう。もちろん、上に召されていることです。私たちは、この世から召し出されたことをいつも覚えて生きる必要があります。私はいつかイエスに似た者となれる日が来ると知れば、やる気がわきます。15節は見過ごされがちですが、パウロはここで皮肉を言っているように思います。「成人」とある部分は、「完全な者」、「全き人」とも訳されています。この世に完全な人はひとりもいませんから、自分を「完全な者」「全き人」と思っている人たちにこの言葉に向けているわけです。パウロは、「もし違った考え方をしているなら——完全な人などひとりもないとは思いませんか」と語っているわけです。このような考え方をしてください。ただ賞を追い求めることに集中してください。賞を追い求める気になれないときもやってくるでしょう。そのときには、神が私たちを動かしてください。聖霊の促しを与えてくださる場合もあれば、誰か人を用いたり、突然霊的なことに目覚める出来事を起こしたりされるかもしれません。では、16節に進みましょう。

ピリピ 3:16

3:16 それはそれとして、私たちはすでに達しているところを基準として、進むべきです。

私たちが賞を追い求めるのには理由があります。そのうちの3つを皆さんにお伝えします。①神に栄光を帰すからです。神が与えてくださる教えに私たちが従っていると、人々がそれを見ることとなります。これは神に栄光を帰します。②私たちの新生を確認させてくれます。私たちが本当に新しく造られた者であるなら、人生の目標が完全に変わるはずですが。私たちはキリストに似た者にされることを目指して、180度方向転換をするべきです。③私たちがまっすぐで狭い道から逸れないようにしてくれます。あらゆるトラブルから守られます。

牧師にとって、一貫性のない信徒を見るのは辛いことです。以前にもお話しましたが、覚えておいてください。自分の信じる神学に見合わない生き方をしてはいけません。たくさんの可能性を秘めた人たちが、この世の泥沼に再びはまるのを牧師は目にします。一貫性を保つのに役立つことが4つあります。

まず私がしていることは、聖書の学びです。神のみことばは、私が頼る唯一の絶対的真理です。次に、祈りです。神と語る中で、人生の導きを得ます。3つめは、試練の中で、神が私とともにおられるという認識です。試練を通されても、神がともにいてくださり、私を強め、しっかりと立たせてくださるといふ確信のもとに一貫した考えを持ち続けることができます。4つめは、目に見える良いクリスチャンの模範を探すことです。もちろんイエスが私たちの究極の模範ですが、神が信仰深いクリスチャンを私の周囲に与えてくださるのには理由があります。

まとめ

自分に問いかけてみてください。皆さんは賞を追い求めていますか。信仰が成長していますか。それとも、立ち止まって過去を振り返り、自己弁護に明け暮れていますか。まだあるべき姿ではないけれど、目標を目指して日々努力していると言えますか。このみことばは非常に重要な部分です。目を覚ましなさいという警鐘でもあります。泥沼にはまっているなら、そのことについて祈り、もういちど賞を追い求める気持ちを新たにしてください。神にお願いしましょう。罪によって歩みが阻まれているなら、罪を神に告白しましょう。そうすれば、神がすべての悪から洗いよめてくださり、賞を目指して前進できるようにして下さいます。